

総領事からの活動報告(2013年3月)

＜紹介プロジェクト；日米高校生の交流他＞

在マイアミ日本総領事

川原 英一



◆日本人写真家による現代写真展

3月4日、プロワード郡にあるノバ サウスイースタン大学(NSU)図書館において、当館と同大学が共催、国際交流基金の助成による写真家荒木(アラーキー)さんなど23人の現代日本人写真家による作品70点あまりの展示会のオープニングがあり、出席致しました。同大学の大

変に立派な図書館の建物の2階にあるギャラリーで、ジョージ・

ハンバリー大学長(左上写真)、アコスタ副学長、大学職員、学

生、地元商工会議所会頭など多数ご参集頂きました。同大学

は日本の文化事業の紹介に大変に協力的であり、昨年秋には、



日本の折り紙専門家によるデモンストレーションを同大学付属の中学校、高校生を対象



に実施しました。同大学は、2万7千名ほどの学生数ですが、そ

の中には、日本も含めて海外からも2千名ほどの学生が学んでい

ます。

写真展のオープニングに際し、当方から、1970年から2000年までの日本の都会や農村の変わり行く姿やその時々の普段の日本人の表情を捉えた写真展であり、日本の経済発展とともに変容していく日本の姿を捉えた作品が結集されている、とご説明を致しました。同写真展示会は約1月間、同大学ギャラリーで開催されています。

◆オーランドと浦安市の姉妹交流親善を支えた高校訪問

3月15日、オーランド市のユニバーサルスタジオの近くにあり、20年以上にわたり浦安市との姉妹都市青少年交流活動を支えて下さったドクター・フィリップ高校(DPHS)を訪問しました。浦安市との親善交流プログラムを実質的に支えてくださっている同高のトロチンスキ校長とバローズ国際スタディセンター長とに会い出来、これま



での交流活動についてお話を伺いました。校長先生自ら、以前に浦安市を訪問した際の写真集を当方に見せてくださいました。89年に姉妹都市を締結後、90年代から、毎年、浦安市国際親善協会や浦安市内の中・高校生達がオーランドを訪問するたびに学生交流やホームステイ・プログラムなど活発に実施をされてきたとのことでした。

(上写真:右端が校長先生、左端はバローズ所長)

また、同高校では、ハルエ・パターソンさんから、16 年間、日本語教師として活躍をされていたことをお聞きしました。現在、レベル1～3のクラス及びアドバーンス・クラスで 60 名近い高校生が日本語などを学んでいます。

同高校を訪問した後、フロリダ中央大学(UCF)を訪問し、外国語学部チェアーであるジョルダーノ教授にもお会いしました。同大学では、州政府から大学への資金が年々減少していることに伴い、大学予算が縮減し、日本語学習は、レベル1～2 までしかプログラムがないとの現状について御説明がありました。

当方から、日本の自治体による米国人英語教師派遣(JET)プログラム及び現在実施中の日米若者交流に関する「絆」プロジェクト、また、今年、規模を拡大して実施される日米の中・高・大学生の若者交流が実施されるとお話ししたところ、大変に興味を示されました。UCF 学生への日本語教育が強化されると、JET 合格者が飛躍的に増える可能性があることを当方から申し上げました。

◆オーランド補習校卒業式に出席

3月16日午前、オーランド日本人補習校の第13回卒業式がありました。レークハイランド・プレップ校中学部の教会を借りて実施され、当方も出席してご挨拶を申し上げ



ました(挨拶内容は、当総領事館 HP に掲載中)。オーランド補習校は、レークハイランド・プレップスクールの校舎を借りて、毎週土曜に授業を行っており、幼稚園から中学生まで 135 名が学んでおります(神戸繁 校長、原忠之 補習校役員代表)。同補習校では、特に、漢字学習に力をいれており、卒業式と併せて行われた終了式では、漢字検定合格者が多数表彰されており、本補習校の特色の一つとなっています。また、年間を通じて、運動会、学習発表会などの学校関連諸行事がありますが、マイアミ補習校の場合と同様、役員だけでなく、父母の皆様全員が各自役割を決めて学校行事の運営に参加されているとお聞きしました。

◆ハリス ローゼン名誉日本総領事との懇談

3月15日午後、ローゼン・ホテルグループの社主であり、オーランド日本名誉総領



事でもあるハリス・ローゼンさん(左側写真)と懇談致しました。ローゼン名誉総領事は、2 年前の3月11日の東日本大地震の直後、日本支援の献金活動をオーランド市で真っ先に提唱して下さり、補習校が教室をお借りしている高校がチャリティー行事を実施して得られた日本支援の献金と同額を、ローゼン名誉総領事自らも提供されました。

また、当総領事館のオーランドにおける領事出張サービスの際は、ローゼン・ホテルグループ施設を提供して頂いております。又、今回訪問した DPHS 高校長からお聞きしたのですが、大学の学費を貰えない高校卒業生のための奨学金制度がローゼン名誉総領事により実施されていることやハイチ支援のための「小さな住宅」と雇用機会を付与するプロジェクトに、数年間にわたり、力を入れておられます。当方と懇談する前日には、マーテリ・ハイチ大統領からローゼン名誉総領事へ直接に電話があり、名誉総領事が進めているプロジェクトのため、土地を提供したいとの申し出があったそうです。ローゼン名誉総領事は、自らプロジェクト進捗状況を確認するため、4月上旬にハイチ入りの予定ですが、その機会に、ハイチ大統領から土地提供をして頂けそうとのお話をしました。

◆3. 11と絆プロジェクト 日米高校生交流

昨年4月、日米首脳会談後、3. 11(東日本大震災)の際の米国からの日本支援に對して、日米の次世代交流事業として「絆」プロジェクトを実施することが、日本政府から発表され、昨年7月、プロワード郡において日本語・日本文化を学習していたウエス



タン高校 23名が、東北地方の高校生との交流のため、訪日招待されました。3. 11から 2年が経過した3月17日から、福島県郡山高校の生徒等 28名が、米国首都ワシントン DC を訪問した後、同 21 日午後には、フロリダ州プロワード郡デービー市にあるウエスタン高校との交流活動に向かう途中、在マイアミ日本総領事館に立ち寄って頂きました

(写真上)。郡山高校の生徒一行による、3. 11の際の体験、得られた重要な教訓などについて、パワーポイント資料を利用して、しっかりとした内容のプレゼンを拝見しました。英語でのプレゼンが極めて立派なものと感じました。

翌3月22日には、ウエスタン高校主催の郡山高校生のための歓迎行事がありました。この歓迎行事には、同高校のジョンズ校長、聰子・フィッシャー先生(写真右のお二方)、ホームステイにご協力を頂いた高校生のご家族の方々、及び地元デービー



市のジュディ・ポール市長(写真左:中央でスピーチをされている方)、プロワード郡教育委員会議長ローリエ・レヴィンソンさん(次頁の冒頭写真で本官と話をされておられる方)、他の教育委員会メンバーの方々にもご参加を頂きました。





郡山高校の生徒さん達が、3つのグループに分かれて、順番に二年前の体験について、個別にプレゼン(右下写真)を行ってくださいました。

同発表後、その内容について、当地の参加者の皆様から、大変に素晴らしい内容であり、強い印象を受けたとの評価を頂きました。



3. 11(東日本大震災)の後、日本政府が打ち出した絆プロジェクトを実施出来たことにより、日米の次世代間の交流が、ここフロリダでも活発に行われ、その結果、市民による草の根レベルでの日米間の相互の理解と信頼関係が、さらに強化されたと感じました。本プロジェクトの実現に尽力をされた全ての関係者の皆様に対して、心より感謝を申し上げたく存じます。(了)